

登録コード	E4612900	開講年度	2026				
授業科目	中等社会科地理歴史教材研究					担当教員	篠崎 正典
英文授業名	Material Study for geography and history Teacing					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・1時限	対象学生	
講義室	教育M301講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	1. 中学校社会科地理的分野・歴史的分野と地理歴史科の授業づくりにおける教材研究の役割と意義を理解できる。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	1. 中学校社会科地理的分野・歴史的分野と地理歴史科の教材研究のプロセスを理解できる。 2. 単元レベルで学習指導案が作成できるようになること。 3. 模擬授業をすることによって基本的な授業の力量を身につけること。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本授業では、中学校社会科（地理的分野、歴史的分野）、高等学校地理歴史科の学習内容について、模擬授業の実施を前提とした教材研究、授業を構想して展開し、評価を行うための授業実践力の基礎を身につけることを目指している。授業前半では、中学校社会科（地理的分野、歴史的分野）、地理歴史科における授業の特質、教材研究の方法、授業方法について検討する。授業後半では、模擬授業のための「素材研究」「教材開発」「授業構想」を行い、報告・検討した後、実際に模擬授業と検討を行う。						
(5)授業計画	第1回：ガイダンスー「中学社会」「地理歴史」の特性とはー 第2回：授業実践に見る教材研究と授業構成1ー中学社会地理的分野の教材研究と情報機器の活用法ー 第3回：授業実践に見る教材研究と授業構成2ー地理歴史科地理の教材研究と情報機器の活用法ー 第4回：授業実践に見る教材研究と授業構成3ー中学社会歴史的分野の教材研究と情報機器の活用法ー 第5回：授業実践に見る教材研究と授業構成4ー地理歴史科世界史の教材研究と情報機器の活用法ー 第6回：授業実践に見る教材研究と授業構成5ー地理歴史科日本史の教材研究と情報機器の活用法ー 第7回：教材研究の成果報告1ー中学社会地理的分野・地理歴史科地理ー 第8回：教材研究の成果報告2ー中学社会歴史的分野・地理歴史科世界史ー 第9回：教材研究の成果報告3ー中学社会歴史的分野・地理歴史科日本史ー 第10回：授業構成と評価の方法 第12回：模擬授業1ー中学社会地理的分野・地理歴史科地理ー 第13回：模擬授業2ー中学社会歴史的分野・地理歴史科世界史ー 第14回：模擬授業3ー中学社会歴史的分野・地理歴史科日本史ー（授業アンケート） ※教育実習等による欠席者への補講は、適宜レポート課題の提出により実施する。						
(6)成績評価の方法	・中学校社会科、地理歴史科における教材研究の理解を測る小レポート(30%)、中学校社会科、地理歴史科の授業実践力を測る模擬授業（20%）、毎回の授業内容の理解を測るポートフォリオ（20%）、中学校社会科、地理歴史科の授業づくりの内容と方法の理解を総合的に測定する最終レポート（30%）、によって評価する。 ・最終レポートは、教材研究と模擬授業を踏まえた上で作成した単元指導案である。最終レポートとする。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	・模擬授業及び最終レポート（単元指導案）の評価規準は次の通りである。(i)テーマの設定が適切である。(ii)テーマに沿った教材研究ができている。(iii)指定された形式に沿って指導案が作成されている、(iv)適切な単元構成ができている。(v)現場で実践可能である。 ・授業内容を踏まえ、(i)から(v)までの項目を満たし、オリジナリティーがあれば「卓越している」。(i)から(v)までの5項目が満たされていれば「かなり上にある」、4項目を満たしていれば「やや上にある」、3項目を満たしていれば「その水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	・各グループでテーマを定め、次のプロセスで教材研究を行う。 ①学習指導要領、教科書、資料集においてそのテーマがどのように授業化されているかを調べる。 ②文献、インターネット、フィールドワーク、インタビュー等により、素材を集める。 ③素材を教材として絞り込み、教材の価値の分析を行い、単元指導案に位置づける。 ④③を基に模擬授業と検討を行い、最終指導案レポートを完成させる。 ・この授業は90時間の学修を必要とする内容であるため、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	・社会科の指導法科目（初等社会科指導法基礎、中等社会科指導法基礎、地理歴史教育指導法、公民教育指導法のいずれか）を履修した後に受講すること。 ・授業開始前には、eALPSにアップロードされた資料や前時に配布した資料を通して予習を行うこと。 ・出席は各自の出席票（ポートフォリオ）に授業内で示す課題について記入することでカウントする。授業中に自分の出席票を受け取り、記入後、授業終了時に提出する。ポートフォリオとして評価材料に使用する。 ・グループワークを中心とする授業のため、積極的な参加が求められる。						

(10)質問，相談への対応及び連絡先	研究室、随時、mshino@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	・文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社、2017年。 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』東洋館出版社、2019年。
【参考文献】	・日本社会科教育学会編『社会科教育事典（第3版）』ぎょうせい、2024年 ・信州社会科教育研究会『新編 のびゆく郷土』信濃教育出版社、2018年。 ・小学校、中学校、高等学校で使用した教科書、資料集、地図帳、地域教材（社会科副読本）。